

「他人事」ではない、「自分事」

ベテラン社員の労災事故

ベテランゆえの油断か、集中力の低下か

2020/2/18 2:00

巨大な2台の建機に頭を挟まれた力ない従業員——。

労働災害の中でも思わず目を覆う凄惨な現場だった。

2019年3月、東京都内にある土木工事会社の敷地内。60代のシニア社員が1台の建機をトラックの荷台に積み込む作業の途中、その悲劇は起きた。

トラックの荷台と地面の間に2枚の登坂板をかけ渡し、この社員が建機を自ら運転してトラックへ乗せようとしていたところ、片側の登坂板がずれて落下した。

足場を失った建機は社員を乗せたまま横転。

建機が横転した先にあったのが巨大なトラッククレーンで、建機の運転席にいた社員は不運にも、自ら運転していた建機とクレーンの間に頭部を挟まれることになった。

■ベテランゆえの油断か、集中力の低下か

建設作業に詳しい者に言わせれば、大きな疑問が二つあるという。一つは登坂板がずれたこと、もう一つは運搬作業スペースのすぐ横に、クレーンが置かれていたことだ。

一般的に、建機を運搬車両に積み込む際は、作業手順を事前に確認し、登坂板の位置を含め万全の注意を払う。さらに万一の時のために周辺状況の整備や確認も欠かさない。

登坂板が外れることも、横転先にクレーンがあることも普通ならあり得ないことだという。

ましてや被害に遭った社員はこの道、30年以上の大ベテラン。

運搬作業は何百回、何千回と繰り返してきたはずだ。

ベテランであるがゆえの油断なのか、それとも高齢化による集中力低下が招いたミスなのか？。

いずれにせよ、「人生100年時代」が到来しようとしているこの先の日本では、こうした事故が珍しくなくなっていくかもしれない。